学校をつくろう!通信

がっこう・N.P.O.
珊瑚舎スコーレ

第143号

学校の役割　　その １２１

開校20周年記念上演・琉球ミュージカル「風とぅ土(カジトゥンチャ)」の台詞や歌詞などの中から自分の「推し」を挙げ、その理由を書いて下さい。初等部「ことば・日本語」の自己評価ノートに書かれた講師から生徒への提案の一つです。

「黄金種子運ぶ　風やまれの人
　　育てゆる土や　我身どやゆる」
(クガニチャニハクブ　カジヤマリヌフィトゥ
　　ソダティユルンチャヤ　ワミドゥヤユル)

歌意は「宝物の種を運んでくれる風は大切なお客様、届けられた種を育てる土はこの私なのです。」

この琉歌(８・８・８・６の３０音４句構成の琉球の短歌)を「推し」にした生徒がいました。声変わり前の綺麗なボーイソプラノで連音(つらね)風に詠みあげていました。連音は琉歌の歌唱法で独特の節を女声の高音で朗々と謡いあげます。天翔ける歌声、奈良の薬師寺東塔の水煙に舞う飛天たちの歌声かと聞きまごうほど美しく歌い上げる歌い手もいましたが、最近は耳にする機会がなくなってしまいました。

この琉歌には元になる句があります。「種子(たね)運ぶ風はまれ人　土はきみ」です。琉球ミュージカル「風とぅ土」のモチーフになった発句です。詩人の谷川俊太郎さんが珊瑚舎スコーレのまれ人講座のまれ人としていらっしゃった時、参加者と巻いた八句形式の変則連句の発句としてお読みになったものです。それを琉球ミュージカル用に翻案しました。発句の下五「土はきみ」を琉歌の下の句「育てゆる土や　我身どやゆる」で受けています。

ミュージカルではこの連音の前に口説(くどぅち)が振り付きのラップ調で歌われます。口説はヤマトゥの浄瑠璃や歌舞伎の口説(くどき)の影響を受けたもので叙事、叙景、喜怒哀楽などを一定の旋律で繰り返して「説く」もので、七五調のヤマトゥことば(日本語)で歌われる琉球民謡の形式の一つです。ミュージカルでは七音の繰り返しになっています。

「風は優しく　種を運べば　土は月夜に　種を育む
月が呟き　星が踊れば　命は芽吹き　また花が咲く
土があるから　花が咲くよに
　　過去があるから　今があるのさ
忘れられない　戦の記憶
　　悔やむことない　明日をつくろう
海見ればほら　亀の目に涙(なだ)
　　俺らのしわざ？　やめるなら今
見えない未来　嘆くことより
　　ともに歩こう　明日への一歩」

間髪を入れず、
「黄金種子運ぶ　風やまれの人
　　育てゆる土や　我身どやゆる」が謳われます。

件の初等部の生徒、自己評価ノートを僕のところに見せに来た時、「推し」の理由が書かれていなかったので理由も書くように伝えました。ところが、二日後、提出された自己評価ノートには「推し」は登場人物の台詞である「そして・・・柿の種！」に変わっていました。理由は「いいシーンで、いきなり寒いジョーク入れてくるのが面白かったです。」消しゴムで消した跡が残っていてその上に書かれています。琉歌を推しにした理由をいろいろ書いたけれど納得できるものが書けなかったことが消し後からうかがえます。消した文章は紙の上からは消えたのですが、推敲を重ねた時間は彼の中で消えることはないでしょう。文書を書くことの意味はこの推敲という時間を作ることだと思っています。(ほ)

がじゅまる しんかぬちゃー

（生徒・学生のコーナーです）

慰霊の日　特別講座

＊沖縄戦で犠牲になった人たちに祈りをささげる日です。珊瑚舎スコーレは毎年、ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸや講演会を通して、この一年間、自分自身がどう平和と向かい合ってきたかを立ち止まって考えるための日としています。今年は午前中に、中等部高等部「うちな一口講座」講師、城間やよいさん出演の「洞窟（ガマ）」をオンラインで観劇しました。午後からは糸満にある魂魄の塔へ足を運びました。若い人達がみたり、きいたり、かんじたりしたことを文章と写真で表現してもらいました。紹介いたします。

「慰霊の日」　　中等部　眞喜志　樹

6月23日。本土ではなじみがないが、沖縄では日本軍の司令官が自害し、事実上沖縄戦が終結した日で、慰霊の日だ。

今年の慰霊の日は、これまでと違う一日だった。午前中は中等部高等部「うちなーぐち」の講師やよいさんの出演する劇、「洞窟（ガマ）」を見た。ある女性が沖縄戦で祖父が隠れていたガマを見に来る。一緒に来たおばあさんは七十六年前、そのガマにいた一人だったーという所から劇が始まり、このおばあさんの回想で劇は進む。

一組の親子が日本軍や住民の隠れるガマへ逃げ込む場面で始まり、音楽とも相まって様々な感情が描かれていた。

蒸し暑い洞窟の中に、日本兵や住民が幾人も息をひそめている。時折、米軍の戦車の音が聞こえ、銃声がなる。子どもが泣くと日本兵が静かにしろと怒る。とてもストレスが溜まりそうだった。また、住民の男性もだんだんと日本兵側に寄っていき、同じ村から逃げてきた親子を怒鳴ったりと、見ていて心が痛む場面もあった。

最終的に、ガマの中で手榴弾が爆発し、学徒生の一人の少女が生き残る。この少女は現代まで生きていてなぜ自分だけ生きているのか、と悔やんでいたが、主人公の持っていた布を見て驚く。その布は、少女がガマで出会った、死んだと思っていた男の子にあげたものだったー。

現代と戦時中が交錯する劇を見て、戦争の恐ろしさやそれを伝えていくことについて再び考えさせられた。また沖縄戦を経験した世代が高齢化し、戦争を伝えることが難しくなっている中で、時が過ぎたからといって、その悲惨さを風化させてはならないな、と改めて思った。

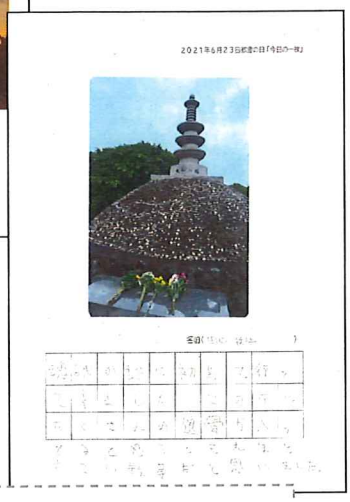
午後は移動し、「魂魄の塔」の周りを歩いて写真を撮ったりした。魂魄の塔は花を手向ける人でいっぱいで、供え物や千羽鶴が沢山あった。他にも「大和の塔」などの他都道府県からの兵士達を奉る塔もあり、線香が幾つも立っていた。

特に印象に残っているのは、塔の裏の海だ。彼方に波音を立てる海は戦時中、米軍の戦艦が数珠玉のように並んでいたという。

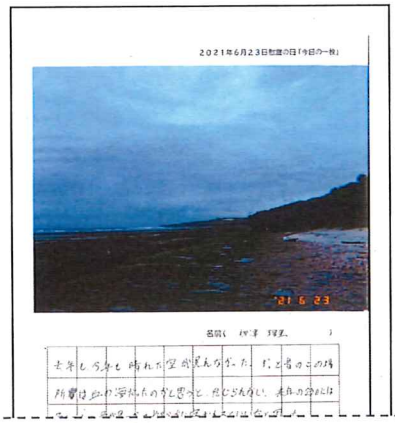
この一日を通し、戦争の惨めさを更に知ることができた。七十六年前の沖縄戦を、経験者に代り伝えられるよう、これからも戦争について正しく知り、考えていこうと思う。

慰霊の日・私が切り取る今日の写真

夕方、おばあちゃんの家に行った時、キレイだな～って思った。

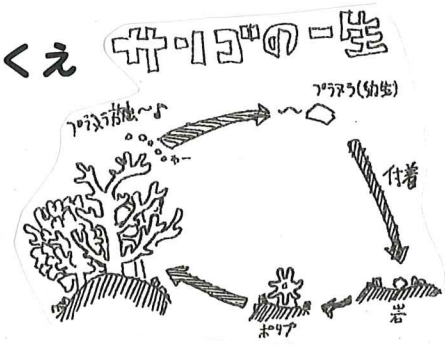


魂魄の塔に初めて行って来ました。この中にたくさんの遺骨が入ってると思うとそれほどすごい戦争だったのだと思いました。



去年も今年も晴れた空が見えなかった。ずっと昔のこの場所は血の海だったのかと思うと信じられない。来年の２３日には多くの人の骨が見つかってやすらかに眠れるといいなと思った。

ポリプのゆくえ



珊瑚舎から旅立ったポリプの幼生達（卒業生、講師、そのほか巣立って行った人たち）が、定着した先々で今どうしているのか。リレー形式で綴ってもらいます。

「ポリプのゆくえ」

藤井　啓（ふじい　ひらく）と申します。

珊瑚舎の専門部に入学しました。卒業後は飲食関係の仕事に関わってきました。現在は同じ珊瑚舎の卒業生である真生（まさお）に声をかけてもらい、古民家を改装した食堂で料理を作っています。お爺さんになる頃にはこじんまりとした喫茶店をやる予定です。

向き不向きはともかく、飲食業が好きなのだと思います。他のお仕事と同様に、飲食業も知識と経験と感性を生かすことのできる仕事です。

僕にとって一番大切な調理器具は電子スケールです。二番目はキッチンタイマーで、三番目は温度計です。これらの道具はある程度の客観性を調理に与えてくれます。しかし最終的な判断は作り手の経験や感性に委ねられます。

素材の状態やその日の湿度等によって同じ料理は存在しないからです。ブレのないように粛々とこなすことを心掛けます。途中で辞めない限り知識と経験は増え、感性が磨かれます。歳を取り感性が鈍ってきたら知識と経験が補ってくれるはずです。地味な日々の積み重ねが大事だと感じています。

珊瑚舎にいた頃「porip」というバンドを３人でやりました。アサクラ、ラク、ヒラクと似たような字面のメンバーです。ギター、ジャンベ、ピアニカを持ち寄った、僕の好きなバンドでした。バンドである以上はそれぞれに役割があります。それが３人にとって重要なことだったように思います。

porip は同じ演奏をいつでも再現できるように目指しました。同じ抑揚や音数、間の取り方を繰り返し何度も練習しました。そうすることに理由や意味はありませんでしたが、目的があることで「porip」としての形ができていきました。練習はいつも公園でした。

porip は雑音との相性が良かったように感じます。公園には沢山の音があり porip もその一部でした。それはとても心地の良いものです。振り返ればいつでもその感覚を自分の中で再現できます。

これまで毎日生きてきて、生きづらさを感じるこ

とが少しずつ減っている気がします。苦手なことは苦手なままです。道を覚える、紐を結ぶ、人に説明するに関しては諦めました。好きなものは少しずつ増えています。茶を淹れる、猫を吸う＊、家計簿をつけるが最近のブームです。これからも淡々と暮らしていきます。＊大好きな猫の毛に顔をうずめて息をすること

知識と経験は重ねている途中です。感性はまだ鈍っていません。チョッキの似合う喫茶店のマスターになる日が楽しみです。

最後に元々、porip(ポリプ) という名前に意味はありません。響きが良いとかでアサクラが適当に決めました。忘れずにいたいと思います。

（平成２０年度　専門部卒業生）

ふくぎのふぁー

（講師・スタッフのコーナーです）

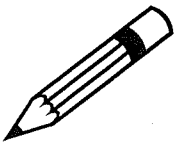
中等部アートタイム担当　有川　愛乃

みなさんこんにちは。中等部のアートタイムで講師をしている有川愛乃です。アートタイムでは生徒たちに『アートの力』を体感してもらう時間にしてほしいと思い取り組んでいます。中等部のみんなは、人懐っこくて、分け隔てなくコミュニケーションがとれるなあ、と感じています。中等部でのアートタイムで驚いたことがあります。それは、作品をお互いに見せあってアドバイスや感想を積極的に言い合っていることです。とってもすごいと思いました。みんなが信頼しあって、安心できる場所になっているからこそできることだと思いました。アートというのはおもしろいもので、テーマを統一しても決して同じ作品が出ない、同じ答えが出てこないおもしろいジャンルです。それぞれの興味があるもの、考えていること、感じ方などが最大限に表現できるのがアートです。わたしは、そんなたくさんの唯一の作品を見るのがとっても楽しいし、おもしろいと思います。だけど、アートには欠点もあり「めんどくさい」ものなんです。指を鳴らして出来上がれば楽ですが、それでいいのかな？アートは「めんどくさい」からこそ味わえるものや、こだわりをもってつくることの大切さに気付けると思います。またアートは、つくったものに価値があるのか、つくることに価値があるのか自分なりに考えてみることも大切かなと思います。

わたしはアートを長い間勉強して、作品として残るものをつくることだけがアート活動ではないと気づきました。人間の行うすべての表現活動や、アートな体験を仕掛けることもアート活動だと思います。わたしは、アートな体験を仕掛けるアートワークショップ活動を仲間としています。そこで出会う多くの子どもたちと、アートをとおしてわくわくする体験作りをしています。今後も続けていって、生涯をとおしてアート活動をしていきたいと思っています。みなさんも、色んなことを知って、体験して経験して、生涯を通して「やってみたい！」と思うことのできるものに出会ってほしいなあと思います。そのために「今」を充実した日常にしてほしいなと思います。

ンケーグム
（向い雲）

卒業制作　自画像より



＊２０２０年度「卒業を祝う会」後、3 日間の山がんまり活動最終日に卒業生は「畑の卒業式」で自画像を読みます。そうして在校生達と卒業を認め合い

ます。前号に引き続き、「卒業のことば～自画像」を紹介します。

＜高等部＞

「自画像」　　住田　瑠羽

２０１８年９月２３日。俺は初めて沖縄にきた。見たことないもの。体験したことのない暑さ、色々のことが新しく、全てが魅力的だった。

９月２４日。寮に体験に行き、２人の寮生とすぐ仲良くなった？（最終的にはちょっといい感じになった。）

９月２５日、珊瑚舎スコーレに体験しに行った。

９月２８日、ガンマリで入学が決定した。同じ日にニトリに行き、布団を買った。

今だから正直に言う。学校には全く興味がなく、寮が楽しかったから入学をきめた。
こんなラフな決め方をしたもんだから、後にめちゃくちゃ苦しんだ。まず学校がつまらなくて、寮の方が楽しいから行きたくなくなり、不登校になる。ちなみに１週間に１回行けばいい方だった。次に寮崩壊事件と言う事件があり、言葉どおり寮が崩壊しかけた。色々あり、学校に強制的に行かざるを得なくなった。嫌々学校に行き、授業中はずっとスマホをいじった。こんな状態が高校１年生、高校２年生の間ずっと続いた。スタッフに何回も呼び出しをくらい、何度も抜けた方がいいのじゃないのかと言われ、親にはもっとちゃんと学校に行けと怒られた。

ところが高２の終わり頃、自主的にこのままじゃダメだと思い本気で変わろうとした。そのきっかけは、おそらくOBの卒業だと思う。なぜ変わろうと思ったのかはずっと考えているけど思いだせない。

その後俺は今の自分にできることを、嫌なことも本気でやった。するとどうだろう、どんどん学校が面白くなって行き、毎日が楽しみになった。知識が増え周りがもっと見えるようになった。未だになぜ１，２年目に学校に行かなかったのか凄く謎だ。タイムマシンがあるならばそれを使って過去のサボってる俺をぶん殴り時間を無駄にしてるんじゃねー！と怒鳴りに行くと思う。

最後に。

俺が珊瑚舎スコーレという場で数多く学んだことの中から２つ言わせてほしい。

１つ目。言葉の面白さと深さ。ある時ほっしーに言われた。人間は言葉でできているという言葉をきっかけに言葉の面白さに気がつけた。具体的に説明すると十ページぐらいになるから、わからない人はずっと考えてたらきっと答えが見つかるはず。

２つ目。思考の交換。自分の思考には限度がある。けど他人と意見を言い合い思考を交換することで新しい思考が生まれ無限に思考を増やすことができるということ。（思考を増やすということは面白い人間になれるということだ。）

最後の最後に一言。ここで学んだことを生かして今後ずっと成長していきたいなと思います。

お　知　ら　せ

「南西諸島ミサイル要塞化の危機」巡回写真展

東アジア共同体研究所が各地で開催している写真展を珊瑚舎スコーレで実施します。自衛隊の南西諸島（奄美・宮古・石垣・与那国島）への配備の実態について現地の写真や資料を多数展示します。入場は無料です。

期間：９月６日（月）～９月１０日（金）
　　１０時から１６時まで

場所：珊瑚舎スコーレ

※期間中、説明員による解説の時間を予定しています。詳細については、珊瑚舎スコーレホームページでご案内していく予定です。ご確認ください。

※駐車場に関しては珊瑚舎スコーレ事務局までお尋ねください。路上駐車や馬天自動車学校の駐車場への駐車はご遠慮ください。

琉球ミュージカル「風とぅ土」再演～動画配信のお知らせ

開校20周年記念･琉球ミュージカル「風とぅ土」、新入生を加えての再演が無事終了しました。緊急事態宣言中での上演だったため、入場の人数制限があり多くの方にご不便をおかけしました。当初、引越し先の津波古地区の方々にも見ていただきたいと予定していた再演がコロナの為に随分とずれこみました。６月にはコロナ感染拡大防止の為の休校措置がとられたり台風の為休校となったり、生徒達は充分な練習時間を取る事が出来ませんでした。しかし、放課後の短い時間や本番前３日間の集中稽古などを通して、７月３１日西原町「ムーンテラス東崎（あがりざき）音楽堂」にて再演をすることが出来ました。様々な形で多くの方々にご協力いただきました。ありがとうございました。

なお今回の上演については、８月中旬頃より動画配信を行う予定です。ホームページでご確認ください。

ミュージカル ～生徒の声（自己評価ノートより抜粋）～

☆今までほぼ劇や舞台に触れてこなかったので、初演、再演を通して舞台のメッセージ性について感じる事ができた。（中等部）

☆みんなで一つの事を作り上げるのは大変なんだなと思った。（略）いつもみんな意見がバラバラでまとまんないのにミュージカルの時はみんなの意見を尊重しあって作ってこれたからすごいと思った。(中等部)

☆２回目だったので笑顔が増えたと思います。なぜなら１回目は緊張で声も小さくて、笑顔がそんなになかったけど、２回目は緊張してたけど緊張がほどけると笑顔になれた、あと声も大きく出せた！（初等部）

★　★　事務局便り　★　★

★ミュージカル「風とぅ土」の再演がコロナ禍のため、５月、６月と何度も延期になり生徒達は練習に励むもののモチベーションを保つのに苦労していました。３回目の８月１日が延期になったら中止にしようと決めていましたから当日はやっと演ずることができると興奮気味の気持ちと初回を超える演技ができないのではという不安に襲われたそうです。それでもエンディングの「今をうたう」の場面では新入生も含めた全員が上気した表情で気持ちよさそうに歌っており、舞台後方にいた演出担当の佐辺さんと共に立ち上がって踊って？しまいました。観てくださった津波古地区のみなさんから、良かった、感動したよー、ありがとうと声を頂き、あぁ終わったんだと実感しました。

★夜間中学のボランティア講師のみなさんから記念樹を頂きました。樹はこちらが選ばせてもらい、沖縄を感じる樹としてテリハボク（沖縄名・ヤラブ）を植えました。４メートルほどの樹です。花が咲くのは何年後かなと思っていましたが、７月半ば気づくと梅鉢型の白い花が。嬉しい驚きです。メモリアルツリーとしてガンジュー（丈夫）に育っていくでしょう。

★　★　★

●今年度（６月１日～７月31日）寄付・カンパを頂いた方々

石田みどり鹿糠文子坂本和子岡村健手塚賢至照本祥敬市野寿子当山幸江森口美千恵三浦幸子山田道子助川寿美子式部恵子丹羽雅代與儀勝子与那覇晴海湯本貴和上田秀一大城喜春北上田登久子盛口佳子真津昭夫家門収一長嶺由紀子橋川由美子小渡律子幸地江美子城間あずき松茂良米子名城悦子所扶久代石野裕子矢崎智章尾崎せき松田晴代萩原真美城間栄順村上呂理伊波雅子仲里博彦下地孝野村佳雄西山哲平智海竹内新大城博長美枝子野村佳雄横山真弓岡部勉赤井朱美奥本さつみ里見實神谷郁雄古堅苗名嘉光生西原邦男泉恵子友寄和子沖教組八重山支部穴田浩一黒川優子矢部妙子宜保洋子辰巳万里子上泉靖子安田圭太郎上高徳弘砂川明俊宮平良紀鈴木和男坂本新一郎古里貴士近角敏道みどり田口焯當間嗣朝夜間中学ボランティア講師一同

発行者　：珊瑚舎スコーレ
事務局　　遠藤知子
住　所　：〒901－1414　南城市佐敷津波古509―4
Tel　　：098－975－7781　　Fax：098-975―7783
Mail　　：info@sangosya.com
URL　　：https://sangosya.com